

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

## 西城で雪遊び満載のイベント

### 雪と遊ぼう冬のクロカンパーク

2月9日・10日の両日、道後山高原クロカンパークで、「雪と遊ぼうウインターinクロカン2008」が開催されました。

これは陸上競技の施設を雪の季節にも利用してもらおうと始まり、今年で8回目。

広島市や福山市などから参加した家族連れ約70人は、かまくら作りやスノーモービル乗車体験、雪中宝探しなど、雪遊びを満喫しました。

かまくらは、準備された大きな雪山を掘り、直径3mの巨大なものが3基完成。9日の夕暮れには、参加者が飾りつけた約100個の雪灯ろうに明かりがともされ、幻想的な景色に参加者から歓声が上がりました。



かまくらの周りに雪灯ろうを設置

## 風をきってタイムを競う

### 西城地区スキー大会



広島県のスキー発祥の地で華麗なシュプールを描く

2月3日、道後山高原スキー場（チャンピオンコース）で、第41回西城地区スキー大会が開催されました。

小学校4年生から60歳までの25人が参加。

最大斜度35度のコースを回転競技で2本滑走し、ベストタイムを競ったほか、20歳以上の部では予測タイムと実際の滑走タイムとの誤差を競う申告タイムレースも行われました。

数日前からの積雪で絶好のコンディションの中、初めてポールを経験する初心者から競技経験者まで、思い思いにレースを楽しみました。

## ちょっと早い春との出会い

### 総領で「節分草」自生地を公開

2月16日から総領町で節分草の自生地公開が始まりました。

今年は、寒い日が続いたこともあり、初日に公開されたのは7個所の自生地のうち、唯一南向きの自生地1個所。例年であれば、この自生地でもかわいらしく咲いた姿を数多く観察できるのですが、つぼみの多い公開開始となりました。

17日には積雪がある中、香川県からのバスも数台訪れ、ボランティアガイド「花守り」による説明を受けながら、節分草を観察しました。



プランターに咲いた節分草を観察



ボランティアガイドの説明を聞く観光客

節分草自生地公開は3月16日まで、残り6個所の公開地も順次公開されます。

期間中は、「花守り」の案内により気軽に節分草の観察ができます。また、土・日は、道の駅リストア・ステーションで、自治振興区や地元団体のバザーもあります。ボランティアガイドは「少し早い春の訪れを感じてほしい」と話していました。

## 過去最多の107チームが熱き戦い

### 広島県雪合戦大会 in 高野

第11回広島県雪合戦大会が2月2日、3日の両日、高野スポーツ広場で開催されました。

県内をはじめ島根県や香川県から過去最多の107チームが参加。一般の部77チーム、レディースの部15チーム、ジュニアの部15チームで、熱戦が繰り広げられました。

1チーム7人が縦10m、横36mのコート内で対戦。選手たちは1セット90個の雪玉を直球や山なりに浮かせて投げ合いました。駆け引きと迫力ある攻防に、観客から声援と拍手が上がりました。

今大会は、一般の部を2リーグに分け、県大会に優勝して全国大会を目指すPリーグと、雪合戦を楽しみたい人のFリーグで行われ、チームの目標に合わせて雪合戦を楽しめるよう企画。

参加者は「雪合戦の楽しさにはまり、毎年出場している。来年は上位を目指したい」と話していました。

会場内では、ちびっこスノーパラダイスなどの雪遊びコーナーや、地元の食材が楽しめるバザーコーナーなども設けられ、多くの来場者でにぎわいました。

(成績は29ページ)



相手フラッグを奪うと勝利



シェルターに身を隠しながら雪玉を投げ合う



コスチューム賞のにつせきレディース



スライダージャンプを楽しむ子どもたち

## スキー技術の向上を目指す

### 庄原市民スキー教室

庄原市教育委員会と庄原市体育協会は1月27日、県民の森スキー場で庄原市民スキー教室を開催し、小学生から60歳まで42人が参加しました。

前日の積雪により絶好のコンディションの中、参加者は技術により各グループに分かれ、庄原市体育協会スキー部の指導で、スキー技術やゲレンデマナーを学びました。



スキーの基本を学ぶ参加者

## 農業体験を学習に生かす

### 口北小が全国表彰を受賞

口北小学校の子どもたちが、農業体験などを作文や壁新聞にまとめ、全国表彰を受賞しました。

「ごはん・お米とわたし作文コンクール」(JA主催)で、口北小学校5年の桑野心海くんの作文「お茶わん一杯の米は何つぶ？」が文部科学大臣賞、また口北小学校が学校奨励賞を受賞しました。

桑野くんは、茶わん一杯分の米1500粒を数えたことや、茶碗に盛られたご飯から、通学途中に目にする農作業の様子が脳裏に浮かび、「いただきます」や「ごちそうさま」と心を込めて言える大人になりたいと作文をまとめ、高く評価されました。

また、1月26日には「JA子どもファームネット全国交流会」に、広島県代表として口北小学校が2年連続で選ばれ、2年生の桑野カムイさん、田原令望くん、深井美結莉さんが参加しました。3人は壁新聞をもとに米や野菜づくりの体験を発表し、全国から集まった子どもたちと交流しました。

三宅稔子校長は「地域の皆さんに支えられ、これからもさまざまな体験から感じたことや考えたことを表現する、地域に根ざした教育活動を進めていきたい」と話していました。



文部科学大臣賞を受賞した桑野くん

## 貴重な文化財を地域で守る

### 文化財防火デーに火災想定訓練



総領の訓練(上)  
口和の訓練(下)



1月26日の文化財防火デーにちなみ、市内各地で火災想定訓練が行われました。

市の重要文化財となっている口和町の多加意加美神社では1月27日、向泉地域の住民約30人と三次消防署口和出張所、消防団口和方面隊などが参加して、バケツリレーやポンプで初期消火訓練を行いました。消防署員による防火教室も行われ、地域防災への誓いを新たにしました。

この地域では、昨年自治振興区で自主防災組織を立ち上げ、今年度は市の補助を受けて背負い式手動ポンプを導入するなど、日頃から火災予防にも取り組んでいます。

また、この日、総領郷土資料館でも、消防関係者や市職員など40人が参加して火災想定訓練が行われました。

## 劇場用のいすでゆったり鑑賞

### 口和「ふれあいシネマ」で新春映画会

口和郷土資料館「ふれあいシネマ」に岡山県玉野市の映画館から譲り受けた劇場用のいす60脚が設置され、そのお披露目となる新春映画会が1月26日に行われました。

今回上映されたのは、1960年に公開された「殿さま弥次喜多」。観客は新しく設置されたいすにゆったりと座り、古い映写機で流れる映像と音楽を楽しみました。

安部博良館長は、「今後も皆さんに楽しんでいただけるよう少しずつ整備し、多くの皆さんに昔懐かしい映画や音楽に触れてほしい」と話していました。



来場者に映画の説明をする安部館長



整備されたいす60脚

## みんなが生き生きできる関係を

### 男女共同参画地域入門講座

気軽に男女のあり方を考えてもらおうと、市内の男女共同参画を推進する団体を中心となって実行委員会を作り、男女共同参画地域入門講座を開催しました。

1月から2月にかけて、「いつもいきいき 過ごしたい！」をテーマに庄原と東城でそれぞれ3回行われ、免疫力を高めるリンパマッサージとアロマ、講演、国際交流の名講座に延べ254人が参加しました。

庄原市在住の外国出身の方を講師に招いた講座では、祖国の料理を学びながら、日本と外国で異なる家族のあり方などを楽しく意見交換しました。



講師にインドネシア料理を学ぶ参加者

## 総領町に春を呼ぶ花飾り

### 老人会が「とうろう菓子」作り



お土産としても人気の「とうろう菓子」

総領地区の老人クラブが1月から2月にかけて、「とうろう菓子」を作りました。

「とうろう菓子」は、もちに色をつけて焼いたもので、梅の小枝などに取りつけて、ひな祭りの飾りつけにするものです。春が遅い総領地域では、花の代わりに色とりどりの飾りを工夫して作っていたと伝えられています。

一時期は作る人も途絶えていましたが、約20年前に老人クラブによって復活しました。今年は1袋10個入りの「とうろう菓子」を約500袋作り、総領町の「道の駅リストアステーション」で販売しました。

## 体を動かし寒がり鬼を退治

### ミニ節分運動会「ふくふく大会」

寒い時期に体を動かし、心も体もぼっかぼかになると、ミニ節分運動会「ふくふく大会」が2月7日、東城子育て支援センターで開催されました。

参加した23組、50人の親子は、ダンボール箱を積み重ねて鬼のサイコロパズルを作ったり、新聞に描いた等身大のいやいや鬼・わがまま鬼・ぐずぐず鬼に、白玉を投げつけたりして楽しみました。

子どもたちは、鬼の紙袋に入った手作りの豆ぱんやバナナをお土産にもらい大喜び。参加者は「いっぱい体を動かし、親子で楽しめた。寒がり鬼も退散したかな」と話していました。



鬼のサイコロパズルで遊ぶ親子

## 特産品アイデアをカタチに

### 「さくらプランニング」が試食会

庄原市の新たな特産品を作ろうと、まちづくりグループ「さくらプランニング」が募集した特産品アイデアの試食会が1月28日、庄原グランドホテルで行われました。

地域食材ワニ(サメ)の天ぷらとハンバーグをはさんだ「ワニワニバーガー」や、桜の花を使用した「さくら豆腐」、トマトや柿など季節感あふれる「四季のプリン」など、11点の試作品が並びました。

「さくらプランニング」や観光協会のメンバーは、料理人に調理方法や経費を聞きながら試食。「味はどれも、おいしい」と好評でした。

後藤宏治座長は「今回の試食で、手ごたえを感じた。実際に事業所で提供してもらえるよう、経費などの課題を克服していきたい」と話していました。



ワニワニバーガーを試食

## 広報紙のノウハウを学ぶ

### 自治振興区連絡協議会が広報研修

庄原地域自治振興区連絡協議会が2月13日、庄原市ふれあいセンターで「読みやすい広報紙づくり」をテーマに広報紙作成研修会を開催しました。

各自治振興区の広報委員など30人が参加。中国新聞社庄原支局の梨本晶夫支局長から、記事の書き方、レイアウトの方法、写真の撮り方などを学びました。

各自治振興区の広報紙をスクリーンに映し、良い点・悪い点を解説する「広報クリニック」も行われました。

参加者は「広報紙づくりの基本が分かり、とても勉強になった。今後の広報紙づくりに生かしたい」と話していました。



新聞記事を例に説明する梨本支局長

## 地域で初めての白寿を祝う

### 高町市場自治会四班が開催

地域で初めて99歳を迎える安廣治郎さんを祝おうと、高町市場自治会第四班が2月24日、安廣さんの自宅で白寿を祝いました。

地域から9世帯11人が参加し、記念品と花束を贈りました。

班を代表し、荒田琢夫さんは「年輪を刻まれた笑顔が人生を物語っている。わたしたちも安廣さんを目標として長寿にあやかりたい。いつまでも元気に過ごしてほしい」とあいさつしました。

安廣さんは、10年前まで現役の畳職人として活躍し、この日も朝から家の除雪作業をして地域の皆さんを迎えるほど元気。この日は、妻ヨシエさんの91歳の誕生日でもあり、二重のお祝いとなりました。

安廣さん夫妻は、地域の皆さんの温かいもてなしに感謝し、特技の銭パイを披露しました。



「長寿の秘訣は妻の料理」と話す安廣さん(前列中央)